

授 業 目 名	言語発達障害学概論	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	1 年(前期)
担 当 教 員 名	北中 雄二	単 位 数	1 単 位
		時 間 数	30 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕 話しことばは人間のみが操ることの出来るすばらしい特権である。一般的に出生後数年間にほぼ日常的な社会生活を営むために必要とされる水準にまで話しことばを獲得している。しかし何らかの原因で発達が阻害されると話しことばの獲得は困難となり、個体の発達全般に障害を生じ、社会性の発達にも支障をきたすことになる。</p> <p>〔学習目標〕 ことばの機能を知ることから、発達に及ぼす影響を知る。また、正常な話しことば発達の経路をたどることから、障害をもつ場合の問題点を把握する。また話しことばの主要因となる、私たちが使用している構音の問題を取り上げて、その障害要因や語音の産生されていく構音操作の状態から、指導の方法を解明していく。</p>		
授 業 回 数	授 業 の 内 容		
第 1 回	障害児の音声		
第 2 回	話しことばの機能		
第 3 回	話しことばに関わる要因		
第 4 回	母音の成り立ち(その1)		
第 5 回	母音の成り立ち(その2)		
第 6 回	子音の成り立ち(その1)		
第 7 回	子音の成り立ち(その2)		
第 8 回	子音の成り立ち(その3)		
第 9 回	子音の成り立ち(その4)		
第 10 回	話しことばの発達		
第 11 回	構音の発達順序		
第 12 回	構音の障害分類		
第 13 回	構音障害に関わる要因(その1)		
第 14 回	構音障害に関わる要因(その2)		
第 15 回	言語発達障害のまとめ		
評 価 方 法	小テスト・宿題レポート 10%、期末テスト 90%で評価する		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 改訂機能性構音障害 本間慎治編著 建帛社 〔参考図書〕 日本語音声学入門 改訂版 斎藤純男 三省堂		
履 修 上 の 留 意 点	講義の中にできるだけ実践的な内容を加え、頭よりむしろ身体で覚えていく。		
メ ッ セ ー ジ	コミュニケーションの専門家になるのだから、あなたの発するスピーチは常に相手の心に届く良いメッセージになることに心がける		